

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング
【24176：光・量子科学研究拠点形成に向けた基盤技術開発（文部科学省）】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 22 日 11：55～12：20
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室
- 3 聴取者：奥村議員、相澤議員
外部専門家 6 名（うち若手 2 名）
- 4 説明者：文部科学省基礎基盤研究課 内丸課長 他
- 5 施策概要

光科学技術及び量子ビーム技術は、重点科学技術分野を先導する重要な分野であり、イノベーション創出に不可欠なキーテクノロジーである。このため、光・量子科学技術分野のポテンシャルを結集し、光・量子科学技術分野のシーズと他分野や産業界等のニーズとの効果的な連携・融合を図るため、ネットワーク型研究拠点を構築し、汎用性・革新性と応用性が広く世界をリードする次世代光源・ビーム源や計測法、ビーム制御技術等を開発する。また、このような最先端の研究開発に若手研究者等の積極的な参加を求めることにより、次世代の光・量子科学技術を担う若手人材の育成を図る。

6 質疑応答模様

【奥村議員】

採択課題は、数値的目標を達成するような「目的達成型課題」と中性子ビームの利用高度化などの「手段型課題」に分けられるのだろう。プログラムの成否の評価軸をそろそろ明確にすべき。それに従って運営やプロジェクトの採択方針を明確にしていく必要があるはずなので。

【文部科学省】

量子ビームは目標を達成することでレベルが設定される「目的達成型」であるが、他の分野との融合・連携による新しい分野の開拓が重要と認識。また、基盤技術であるため使われてはじめてフィードバックも可能となる側面もある。ナノテクネットワークで成功したワンストップサービスの提供などを参考にして、利用しやすい環境づくりをしていきたい。

【外部専門家（若手）】

来年度は本施策の 4 年目だが、ネットワーク拠点として有機的な繋がりは改良してきたか。改善しているところはあるか？

【文部科学省】

大阪大学等幾つかの機関が、それぞれ得意とする要素技術を分担し、それに加えて産業界との連携の統一窓口をつくっている。東京大学を中心にしたグループでは、研究開発に加え人材育成にも力を入れている。

【相澤議員】

全体としての位置付けが曖昧で、説明資料のどこにも載っていない。各々のプロジェクトは目的があるが、それぞれの課題を充実する以上に、光・量子科学全体のネットワークを作り強化することが重要。そのメッセージが具体的になっていない。

【文部科学省】

「(新しい)光源をつくる」ということが当初の目的であったが、本施策も3年目を迎え、目途がついてきた。これからは、拠点として、外部と連携して成果を広めていくフェーズとなってきていると感じている。ユーザーから見えやすいネットワーク作りを、ナノテクネットワークなどを参考に検討していきたい。

【外部専門家】

今後の課題を解決するためのインフラとなることが重要。その考えかたをもって、ナノテクネットワークとリンクして推進して欲しい。

以上